




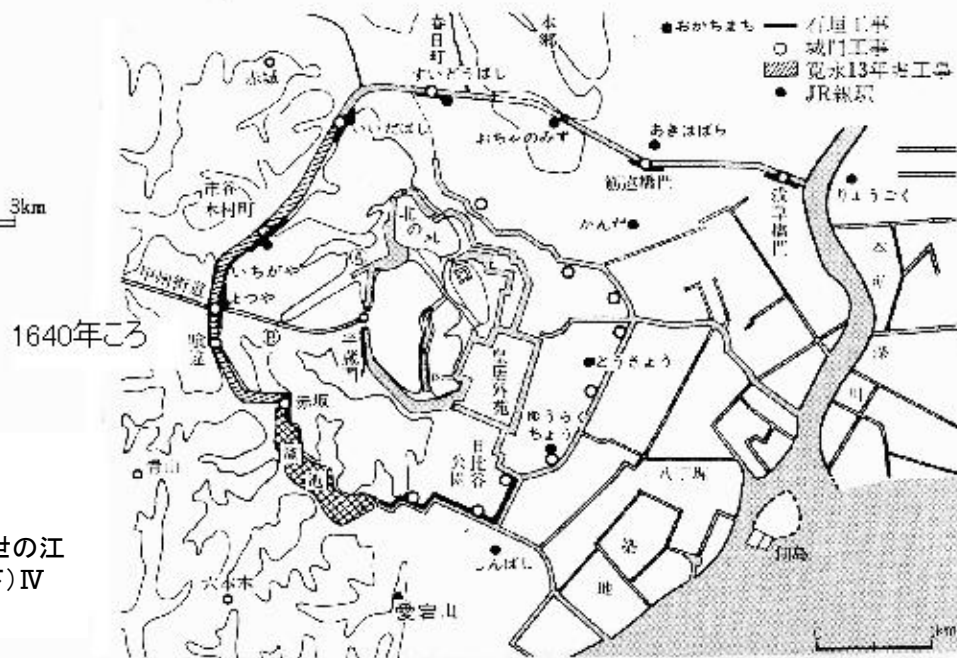
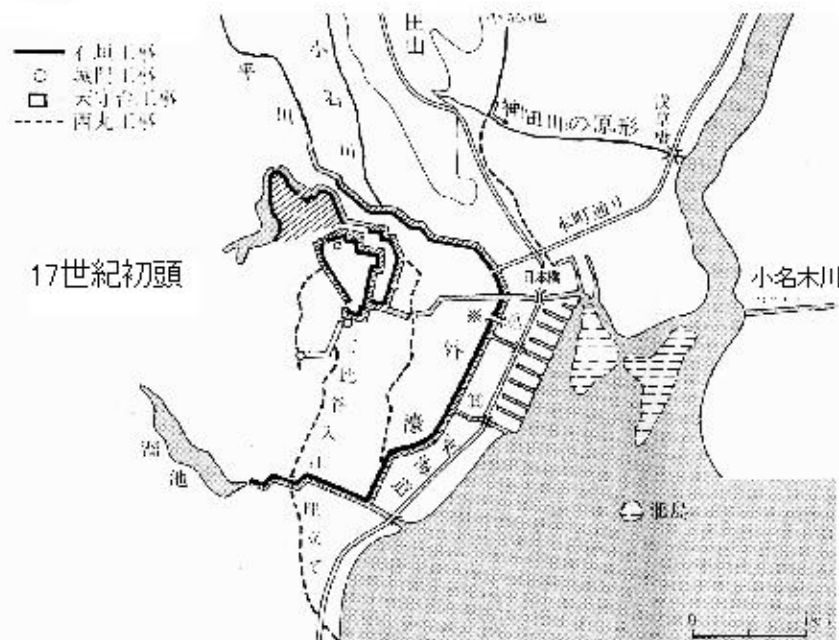


※ 禁複製 『アトラス東京 地図でよむ江戸～東京』正井泰夫、平凡社、1986年

※: このマークが付してある著作物は、第三者が有する著作物ですので、同著作物の再使用、同著作物の二次的著作物の創作等については、著作権者より直接使用許諾を得る必要があります。

 武蔵野谷地
 自然堤防により陸化した土地
 洲または陸化しつつある低湿地
 沖積地
 荒川

†鈴木理生『江戸の川 東京の川』井上書院（1989年）-（左）Ⅲ中世の江戸湊 図14道灌時代の江戸湊、（右上）図22江戸前島の改造、（右下）Ⅳ近世江戸城の成立 図26 改変



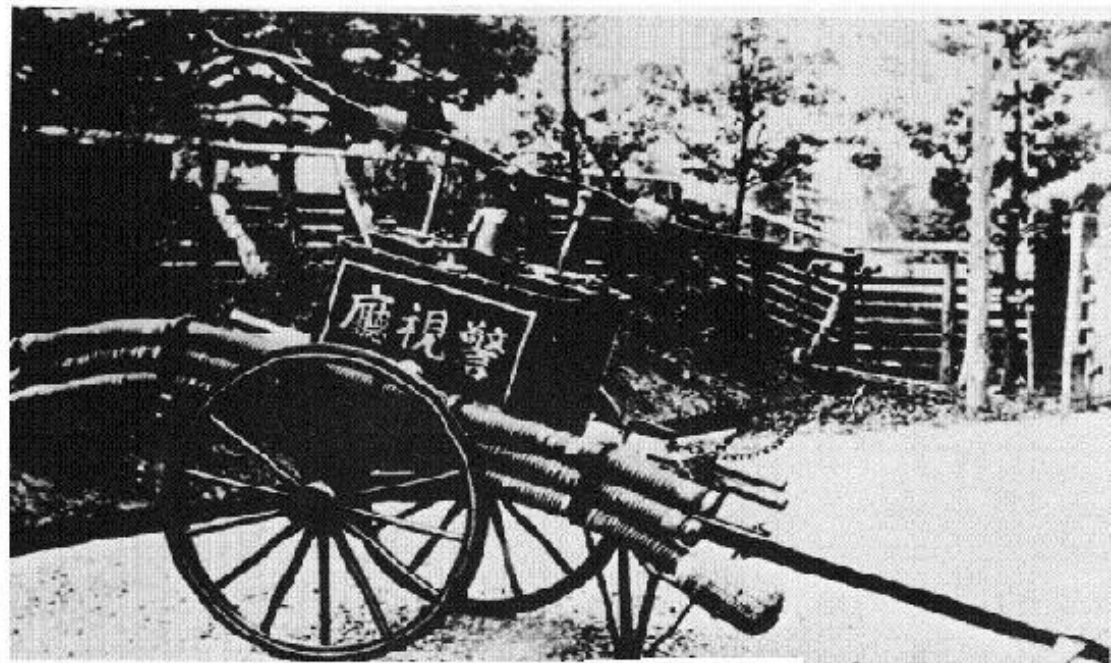
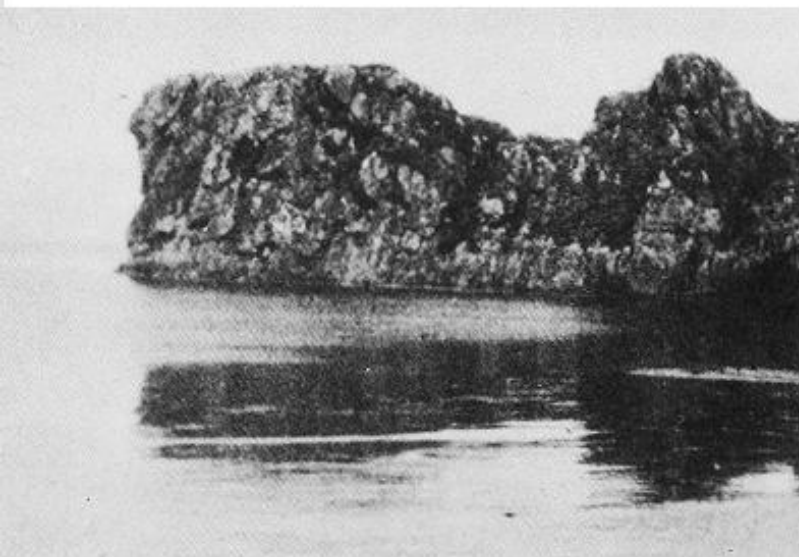


The Far East 1872.6.17 横浜都市発展記念館・横浜開港資料館『文明開化期の横浜・東京』

明治初年の日本橋近くの町並み



腕用ポンプ



山形県酒田市飛島婦人消防組

『写真図説 日本消防史』より



中府内^{中府}又^又腕^腕まん^{まん}爲^爲不^不位^位居^居等^等早^早を

雲々夜の入りし時遠くをこゝろへて食のなるなり

此地子降り死し命いのちふさふさするをおとこ死し中ちゅう命いのちの數かずを

あつたてん
ふは布衣より四かどよりふいねより金の数に

又々市文化市令 殆ど建築家の原技ハ眼ハ

止つて三日月を眺め、土の散れで、砂の

實子數無示金をうけ加納吉秀示下下り安住

あつたやうに之を^{つづ}め^{つづ}け^{つづ}て又^{また}さうなことを今

吾のあゝと云ふ一物をも云ふのふあゝと云ふ

新正の来賓のついでにせん次々かういふ

又據程子以人言

1998-1999



△孫を死す者の大位者ふ即ちといふも當代の老人程安ふ知るものじ

まふ年未のり賜ふる可かれ人疑ふむもあへん人景宗

いふてはざる我の親と云ふ紀文。○文政十二家辛丑月々景福色用好

天保乙辰年二月武庫令司婚。因乙未年七月百支錢為用婚。

○同七年、漢平作之、所以西文、殊非、至今、八、夕、初、五、日、の、む、美、一、學、

時齊人欲求食之者多由多多勢不族足謀未年の

稲葉阿武松（おのゝのり）角力の大入大驚異又芝居の中村欽方（のりかた）の名流歌

大なり受ふ飢餓きうえんの体ありて是金く
 公より小救のを辱るるふ

卷之八
○天保八年六月朔日
○同九年

五ふ能百文有米四合八分救物。十二丑年土月十日より天の改年

芝岳八歲至人智化師在女卷九排仲君紹會德運上以失亡言乃修發

燒跡見舞圖





『風俗画報』186 明治聖世消防図会、明治32年4月



明治末年の警視庁蒸気ポンプとはしご車－挽馬

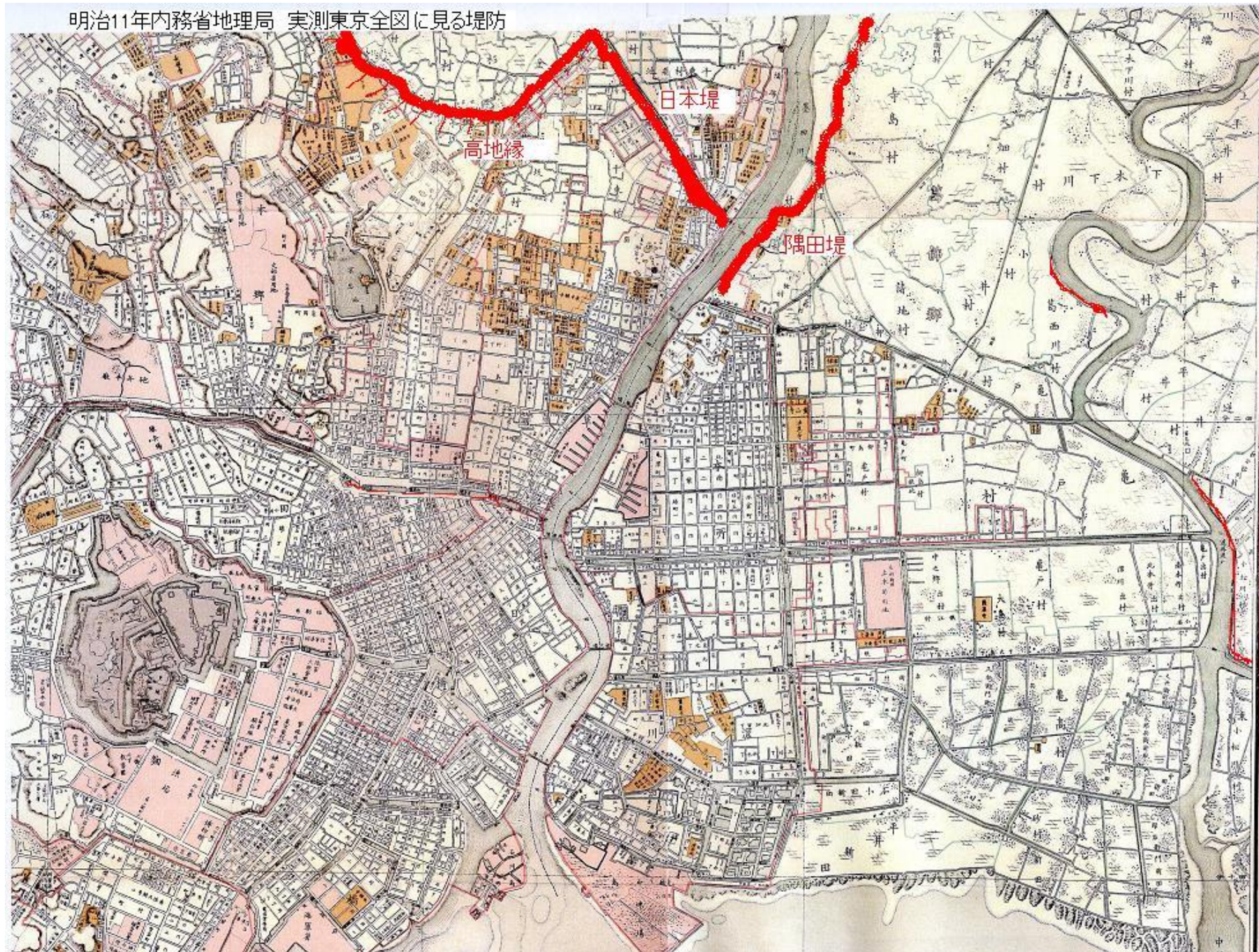


西神田大火(大正2年)の際の蒸気ポンプ

『写真図説日本消防史』



明治11年内務省地理局 実測東京全図に見る堤防





写真(『荒川下流誌 資料編』より)

『荒川下流誌 資料編』 荒川下流誌編纂委員会編著 東京 リバーフロント整備センター出版 東京 山海堂販売(2005年2月)3頁、写真1



機械掘削

人力(トロツコ)運搬



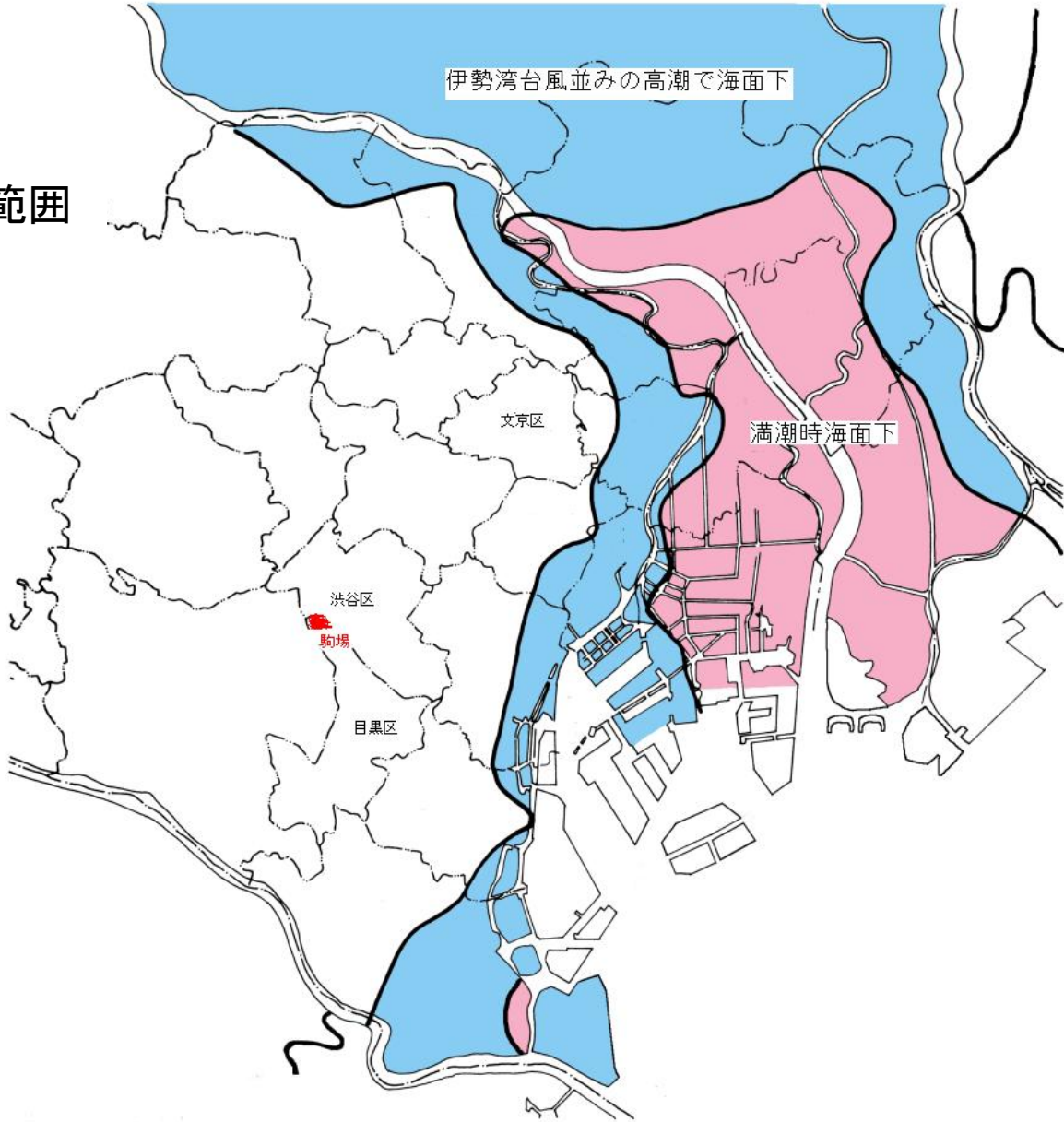
荒川放水路工事



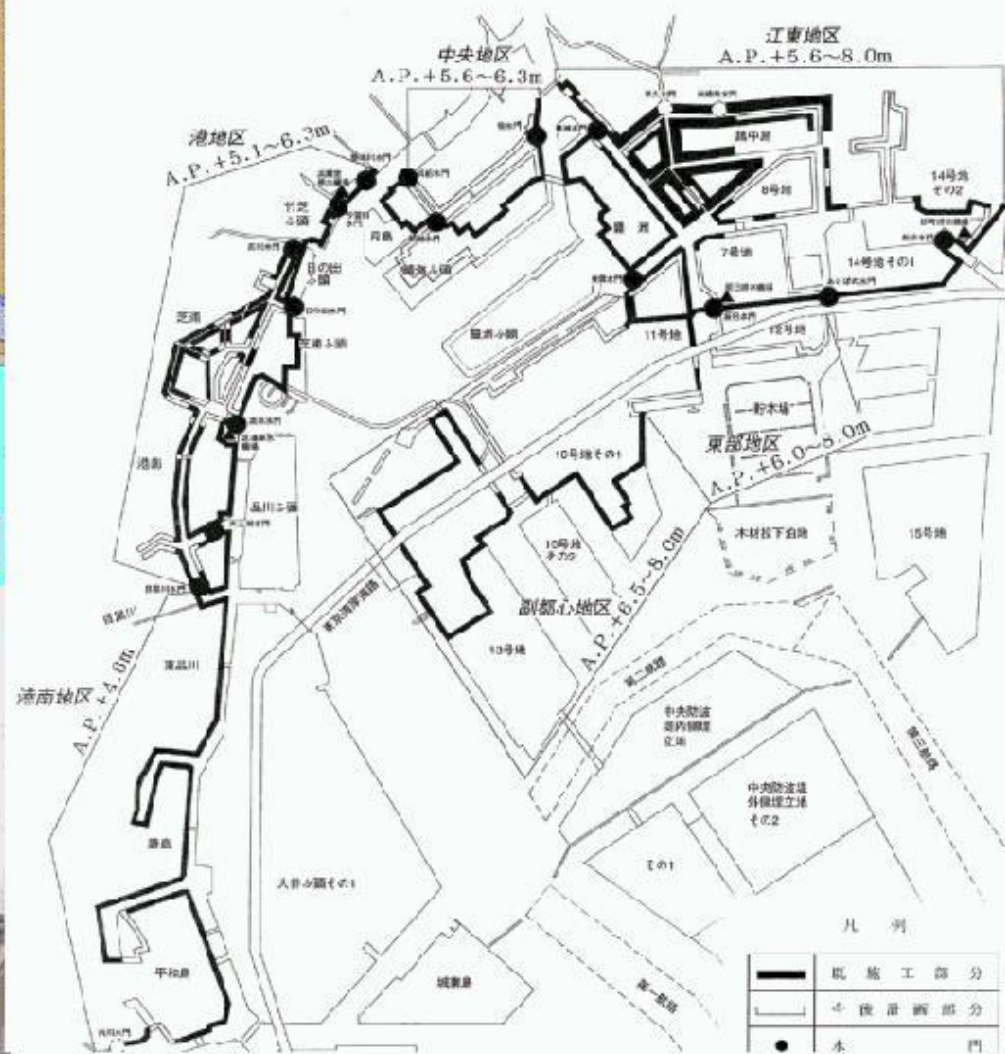
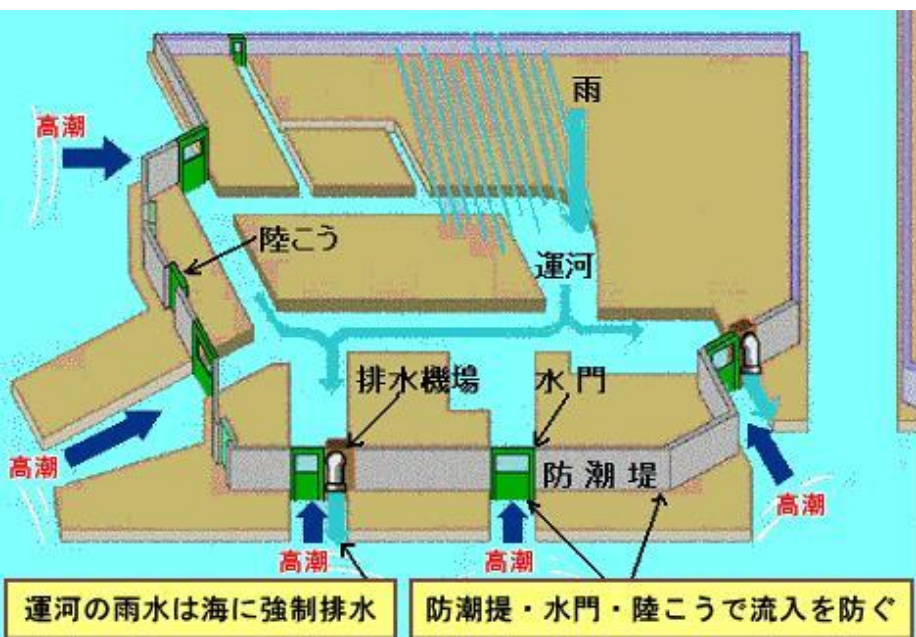
浚渫船



高潮危険範囲



高潮対策



左上図

† 東京都港湾局HP <http://www.kouwan.metro.tokyo.jp/jigyo/takashio/katsudou/katsudou-top.html>